

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	物流・産業		25年度事業・施策評価結果			責任者	企画調整室 事業担当課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化		成果	コスト				
事務事業名	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業		延伸	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 <small>計画担当、港整備、工事課、港湾工事事務所</small>	
目的	対象(誰・何を)	稲永ふ頭用地					事業 期間	平成4~31年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備します。						
概要	整備場所:名古屋港区(稲永ふ頭) 内容・規模:陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備し、モーダルシフト(トラックによる幹線貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な海運または鉄道に転換すること)を推進します。ふ頭用地7.1ha(埋立て、地盤改良、舗装工、排水工等)等の整備 総事業費:41億円					根拠 法令等	公有水面埋立法 港湾整備促進法 名古屋港湾計画	
事業着手時点の 評価	ふ頭用地の整備を行うことにより、ふ頭機能の老朽化に対応するとともに、ヤード面積等(7.2ha)が確保され、在来貨物等取扱機能の向上を図ります。					実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
26年度の実施予定	複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルへの需要動向を見極めながら、事業の進捗をはかるため、現時点ではふ頭用地整備の進捗を図る予定はありません。					関連 シート		

2 DO(実施)

26年度に実施した 内容・結果	事業進捗はありませんでした。					
コスト	単位	24年度	25年度	26年度	合計(平成4年度~)	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	3,272,000	
人件費	千円	0	0	0	-	
合計	千円	0	0	0	3,272,000	

3 CHECK(検証)

指標名	24年度	25年度	26年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗率(%) (進行管理型)	目標	-	-	79.8	94.4(累計)	事業進捗率は、総事業費を100とした事業費の割合です。	
	実績	79.8	79.8	79.8			
	事業進捗状況(26年度)			○順調 やや遅れ・遅れ			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	ふ頭用地需要の動向を見極めながら、必要な事業を進めていくことから、事業進捗はしていません。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	稲永ふ頭における在来貨物取扱機能の向上について、必要性は低下していませんが、利用者ニーズを見定めながら、事業を進めていきます。					
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	ふ頭用地を整備し、在来貨物等の取扱機能を向上させることは、上位施策である「国際・国内海上輸送機能の強化」に貢献すると考えております。					
効率性 最小のコストとなっているか?	○	ふ頭用地の需要動向を見極めながら、事業を実施しております。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	27年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	・モータープール等として活用しており、ふ頭用地需要の動向を見極めながら、必要な事業の推進を図る必要があるため。
課題			
複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルへの需要動向を見極めながら、事業進捗を図っていく必要があります。			稲永ふ頭におけるふ頭用地の状況を注視しつつ、事業実施を検討していきます。